

□■養成所ニュースプラス第7号 2026□■

先月23日から29日までは、男女共同参画社会基本法に定められた「男女共同参画週間」でした。市町村は、国の男女共同参画基本計画及び都道府県男女共同参画計画を勘案して、市町村男女共同参画計画を定めるよう努めなければなりません（努力目標）。

今週のPlus Quizは、「社会学と社会システム」から「災害時のレジリエンス」に関する問題です。この問題も正解したら終わりではなく、正解ではない選択肢は何の説明なのかも考えてください。

■Plus Quiz・・・・・・・・

【第37回問題18】災害時におけるレジリエンスの意味として、最も適切なものを1つ選びなさい。

1. 災害の発生から復旧・復興に加え、次の災害に備えていくための諸活動を一つのサイクルとして捉えることである。
2. 支援ニーズに対して支援者側から積極的に働きかけて情報や支援を提供することである。
3. 被災者並びに被災地が被害から立ち直っていく際に持つ力のことである。
4. 予期しない出来事に遭遇した際に、事態が悪化しているにもかかわらず楽観的な見方を維持する態度のことである。
5. 大規模災害の後に一時的な現象として発生する理想郷的コミュニティのことである。

正答と解説は最後に記載してあります。

■Yoseijo Info・・・・・・・・

- ・(37期生) 教育訓練給付制度（専門実践教育訓練）の支給希望の方へ
申請書類一式は原則として、再発行はできませんので、お取り扱いにはご注意ください。
本養成所からの申請書類発行のため、「受給資格者証と公的身分証明書のコピーの提出」及び「レポートの提出」「スクーリングへの出席」「授業料の納入」が必須となります。
- ・(38期生) 教育訓練給付制度（専門実践教育訓練）の支給希望の方へ
「受給資格者証と公的身分証明書のコピー」の提出をされていない方は、早急に提出してください。
- ・(38期生) 見込書類（実務経験証明書）のさしかえについて
入学願書提出時に「実務経験見込証明書」を提出している方は、入学資格または実習免除を満たした期間の「実務経験証明書」の提出が必要となりますので、早急に提出してください。
- ・受講の手引に“レポート作成・提出チェックリスト”があります。
レポートの作成・提出の前に必ず確認してください。
- ・(第37-38期生) 今夏のスクーリングの日程及び会場のご案内です。
詳しくはこちら→http://www.aigo.or.jp/yoseijo/?page_id=356

■Test Info・・・・・・・・

- 国家試験に関する情報をお届けします
- ・第39回国家試験は、令和9年2月7日です。
詳しくはこちら→<https://www.sssc.or.jp/shakai/index.html>
 - ・日本ソーシャルワーク教育学校連盟主催の全国統一模擬試験のご案内です。
詳しくはこちら→<https://www.spw-mosi.com/exam/>
 - ・本養成所主催、「受験対策講座」はwebにて開催中です。
2本目の「受験対策のポイントを中心とするガイダンス」が視聴可能となりました。是非ご活用ください。
受験対策ページへアクセスはこちら→http://www.aigo.or.jp/yoseijo/?page_id=5529
- ※パスワード等の案内は、養成所ニュースプラス第2号、第4号に添付しています。

■Plus Info・・・・・・・・

その他の情報をお届けします

・日本知的障害者福祉協会では様々な情報を発信しております。

詳しくはこちら→<http://www.aigo.or.jp/>

■Back Number・・・・・・・・

過去のバックナンバーはこちら→http://www.aigo.or.jp/yoseijo/?page_id=2686

■Plus Column・・・・・・・・

【受験対策ミニ講座第3回／社会学と社会システム】

1 第37・38回の科目の傾向

従来から覚える事項が多い科目ですが、出題傾向を見ると単なる暗記で太刀打ちできない問題も増えています。例年出題されてきた項目が引き続き出題される一方、これまでと異なる取り上げ方も目につきます。例えば、福祉レジーム論の内容だけでなく背景まで問われたり、国民生活基礎調査の概況では従来の世帯数や世帯人員でなく3年に1回公表される貧困率が問われたりしていました。

事例問題は、この5年間出題されておらず、第38回で1題出題されました。今まで単独で出題されていた事項を選択肢に並べた事例問題です。この1問で、幅広い知識が身に付いているかがわかるため、今後も同様の出題が継続していくのではないかと推測されます。

2 国家試験の対策

頻出事項の一つが人物と理論に関する問題です。この5年間でも間違いの選択肢を含めると約40人の人物が出題されています。例えば、第38回では「デュルケムの自殺論」「エスピン-アンデルセンの福祉レジーム論」等が出題されました。出題の仕方に変化があるものの、まずは、人物と理論について基本的な内容を確実にしましょう。中でも、ヴェーバー、ゴッフマン、デュルケム、テンニース、パーソンズは頻出です。

この科目の出題基準には、第37回から中項目に「グローバリゼーション」「環境」「災害と復興」「自己と他者」「社会化」「相互行為」が加えられました。出題実績が少ないため、受験参考書やテキストの該当箇所では基本的な知識を理解しておくことが必要です。今回出題した問題も新たに加えられた「災害と復興」からの出題です。

国勢調査や国民生活基礎調査、労働力調査等の統計資料や少子化社会対策白書、男女共同参画白書等の白書類も出題されています。多くの資料があり「きり」がありませんが、出題された資料の直近の概要や特集については目を通しておくことをお勧めします。また、過去問から傾向をつかむこともできます。

この科目では基本的な問題を確実にすることで、6問中2問から3問がねえます。第37回では問題13「社会集団」と問題18「災害時のレジリエンス」、第38回では問題13「デュルケムの自殺論」と15「人口統計に用いられる用語」は、落とさないことです。

【Plus Quiz・・・・・・・・正答と解説】

レジリエンスは、1980年代に「子どもが逆境に遭遇しながらも、それを克服し、社会でポジティブな適応をする現象」を表すものとして使われるようになりました。その後、個人にとどまらず地域におけるレジリエンスの重要性が言及されるようになりました。

第37回の国家試験では、「心理学と心理的支援」問題10でもレジリエンスについて出題されました。共通科目2「心理学と心理的支援」の第4章「健康生成論」や、第6章「支援者支援福祉」で紹介されています。「ハーディネス」や「ストレングス」との違いは、同上225ページで確認しておきましょう。また、災害については、共通科目6「地域福祉と包括的支援体制」第6章「災害時における総合的かつ包括的な支援体制」や社会専門6「ソーシャルワークの理論と方法（専門）」第1章第3節にも説明があります。災害時支援をそれぞれの科目の視点から学ぶことができます。

1. ×「災害サイクル」の説明です。「災害サイクル」では、発災から復興までのプロセスを超急性期、急性期、亜急性期、慢性期、平穏期等のフェーズに分けて、各フェーズで適切な対応策が必要です。
2. ×「プッシュ型支援」に近い内容の説明です。「プッシュ型支援」は、発災直後、被災地からの支援要請がなく支援ニーズが不明でも、支援体制を構築し支援物資を調達、供給することをさします。
3. ○災害時には、支援する側だけでなく支援される側の被災地や被災者の適応能力や回復力も重要です。
4. ×「正常性バイアス」の説明です。例えば、土砂災害危険警報が発令されても「いつも山は崩れないし、今日も大丈夫だ」と避難しないような心理傾向のことを言います。
5. ×「災害ユートピア」の説明です。ソルニット（Solnit,R.）は、災害直後に被害者と関係者の間に仲間意識が高まり助け合いが生まれるなど、一時的に高いモラルのあるコミュニティが生まれることを「災害ユートピア」としました。

※掲載内容の転載・再配布はご遠慮ください。

※メール内容に対する個別の対応は行っておりません。

※問い合わせ等については社会福祉士養成所ホームページより行えます。

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-7-19 K D X 浜松町ビル 6F

Copyright2016 YoseijoNewsplus